

フレームワークの概要及びセカンドパーティ・オピニオン

戸田建設グリーンボンド

評価概要

サステナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドフレームワークは信頼性が高くインパクトの強いものであり、グリーンボンド原則 2018 の 4 つの核となる要件に適合しているとの意見を表明します。この評価に際して考慮したのは以下の要件です。



調達資金の使途 調達資金の使途である再生可能エネルギーはグリーンボンド原則において認められているものと合致しています。サステナリティクスは、洋上風力発電施設の建設が明確な環境改善効果をもたらすものであり、国際連合が定める持続可能な開発目標 (SDGs) のうち、特に目標 7 を推進するものと考えます。



プロジェクトの評価及び選定 戸田建設のエネルギー事業部は、調達資金の充当対象として選定したプロジェクトが適格クライテリアに適合していること及び関連する環境リスクを低減するためのプロセスを順守していることを確認します。プロジェクト選定における最終承認は取締役会が行います。サステナリティクスは、戸田建設の経営幹部レベルの関与がマーケットベストプラクティスであると評価します。



調達資金の管理 戸田建設の財務部は、適格プロジェクトの予算と実際の支出を四半期単位で追跡管理する内部管理システムを用いて、グリーンボンドで調達された資金の充当及び管理を行います。内部管理システムを用いた調達資金の管理及び追跡のプロセスは、マーケットプラクティスに合致しています。



レポートイング 戸田建設は、プロジェクトへの充当額とプロジェクト概要を同社ウェブサイト及び CSR レポートにおいて年次で公表することを約束しています。加えて、同社は、風力発電機の出力や、データが入手可能な場合はプロジェクトによるカーボンオフセットの量などの定量的な環境効果指標についてレポートを行うことを約束しています。さらに、戸田建設は、財務担当役員 (CFO) から調達資金の全額が充当されるまでの間、毎年、グリーンボンドによる調達資金が適格プロジェクトに充当されていることを確認する旨のレターを受領する予定です。これはマーケットベストプラクティスに合致しています。

評価日	2018 年 10 月 30 日
発行体所在地	日本 (東京)

レポートセクション

はじめに.....	2
発行体概要.....	2
フレームワークの概要.....	3
サステナリティクスのオピニオン.....	6
参考資料.....	9

本件に関するお問い合わせは、以下の Sustainable Finance Solutions プロジェクトチームまでご連絡願います。

Wakako Mizuta (東京)
Project Manager
wakako.mizuta@sustainalytics.com
(+81) 3 4510 7979

Trisha Taneja (トロント)
Product Manager
trisha.taneja@sustainalytics.com
(+1) 647 317 3695

戸田建設グリーンボンド

はじめに

戸田建設株式会社（以下、「戸田建設」または「同社」）は、グリーンボンドを発行するためのグリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）を策定し、その調達資金を浮体式洋上風力発電施設の建設に関連する支出に充当します。

戸田建設は、サステナリティクスとの間で、国際資本市場協会（International Capital Market Association, ICMA）が定めるグリーンボンド原則 2018（Green Bond Principles, GBP）¹との適合性及びグリーンボンドフレームワークの環境面での貢献についてセカンドパーティ・オピニオンを提供する委託契約を締結しました。

当該契約の一環として、サステナリティクスは、戸田建設グリーンボンドにおける調達資金の管理やレポートだけでなく、戸田建設のビジネスプロセス及び予定している資金使途のサステナビリティ（持続可能性）への影響を理解するために、戸田建設の経営幹部の様々なメンバーとの対話を実施しました。また、サステナリティクスは、関連する公表文書及び社内文書の審査を行いました。

この意見書は、戸田建設のグリーンボンドフレームワークの概要（フレームワークの要約）とサステナリティクスの意見（フレームワークに対する意見）の2つのセクションにより構成されています。

発行体概要

戸田建設は日本国内外において主に総合建設業を営んでいます。同社は住宅・官公庁・商業建築（集合住宅、病院、学校、行政施設など）、さらにインフラ建設（空港施設、駅施設、トンネル、上下水道施設など）と多彩な建設事業に携わってきました。同社はこれらの建設事業に加えて電力エネルギー施設（メガソーラー発電所、風力発電所、水力発電所など）にも重点を置いています。戸田建設は1881年に創業され、日本国東京都に本社を置いています。

同社の「環境方針」²は以下の3つの活動に取り組むことを定めています。

1. 汚染の予防、資源の有効利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、生物多様性の維持・保全等に係わる環境負荷低減活動を推進する。
2. 環境関連事業及び技術開発に取り組むと共に、建設物の設計・施工及び施設の管理等すべてにおいて環境保全活動を展開する。
3. 環境に関する法令、協定等を順守すると共に、情報の開示に努め、社会とのコミュニケーションを図る。

戸田建設は、これらのコミットメント、特に1及び2を推進するために、2017年12月にグリーンボンドを発行し³、同じ風力発電施設に係る資金調達のために、2018年にもグリーンボンドの発行を予定しています。

¹ グリーンボンド原則 2018（ICMA） <https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/green-bond-principles-gbp/>

² 環境方針と推進体制（戸田建設株式会社） <http://www.toda.co.jp/csr/environment/vision.html>

³ 戸田建設グリーンボンド（戸田建設株式会社） <http://www.toda.co.jp/csr/environment/greenbond.html>

フレームワークの概要

グリーンボンド発行のために、戸田建設はグリーンボンド原則（GBP）の4つの核となる要件（調達資金の用途、プロジェクトの評価及び選定プロセス、調達資金の管理、レポート）に適合するフレームワークを以下の通り策定しました。本フレームワークは戸田建設に帰属し、以下はその概要を示すものです。

調達資金の用途

グリーンボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当される予定です。

適格クライテリア

1. 再生可能エネルギー

調達資金の用途：

五島市沖洋上風力発電事業（長崎県五島市崎山沖）における浮体式洋上風力発電施設の建設に関連する支出。関連する支出とは、風力発電機、浮体、送電網への接続を指します。

参考資料1には戸田建設が本グリーンボンドで調達した資金の用途として予定している風力発電機のリストを記載しています。

参考資料2には五島市沖洋上風力発電事業の実施想定エリアを示しています。

プロジェクトの評価及び選定プロセス

プロジェクト選定における適格・除外クライテリアの適用

グリーンボンドによる調達資金の充当対象として選定したプロジェクトと適格クライテリアとの適合性及び下記の環境リスク低減プロセスの順守については、戸田建設のエネルギー事業部が確認します。プロジェクト選定における最終承認は取締役会が行います。

環境面に係る目標

戸田建設では3つの環境方針を事業活動に取り入れるため、8つの環境活動である、1)環境マネジメントシステム、2)建設及び一般廃棄物の削減、3)有害物質のリスク管理、4)温室効果ガス発生抑制、5)生物多様性への対応、6)グリーン調達の推進、7)環境技術に関する研究、開発、プロジェクトの推進と実施、8)環境的配慮の推進、に重点を置いています。

さらに戸田建設にはCO2排出量を減らし環境目標を実現するための4つのメカニズムとして、1)CO2排出量を最小化した建設方式の採用によって建設プロセスからのCO2排出量を減らす、2)自社オフィスからのCO2排出量を減らす、3)戸田建設所有施設からのCO2排出量を減らす、4)従業員がCO2削減に取り組む、があります。

戸田建設グリーンボンド

環境リスク及び社会的リスク低減のためのプロセス

戸田建設は環境リスクを低減するために以下の2つのプロセスを実施しました。

1. 本グリーンボンドの調達資金を使用して建設される浮体式洋上風力発電施設の風力発電機と浮体は、2010年度から2015年度まで行われた環境省の浮体式洋上風力発電実証事業で実証研究が行われたものと同じタイプ（風力発電機はダウンウィンド型、浮体はハイブリッドスパー型）です。環境省のこのプロジェクトでは、風力発電施設の技術的条件とともに五島市杵島沖の風力発電施設建設による環境への影響も調査され、環境への負の影響の可能性は限定的であるとの結論が出されました。戸田建設は環境省のこのプロジェクトに共同事業実施者の代表等として参加しました。
2. 風力発電施設は日本の環境影響評価法⁴に定められている環境影響評価の手続きに従います。出力10,000 kw以上の風力発電機の建設には、重大な環境影響を防ぎ、持続可能な社会を推進するために環境影響評価手続きを実施することが義務付けられています。戸田建設は、五島市沖洋上風力発電事業について、2016年9月より環境影響評価（EIA）の手続きに着手し、各種調査や有識者へのヒアリングなどを実施してきました。2017年8月に方法書に係る経済産業大臣勧告⁵、2018年4月に準備書に係る経済産業大臣勧告⁶を受領した後、2018年7月に環境影響の調査や予測・評価についての結果を示した環境影響評価書を作成し、2018年8月に経済産業省より評価書の変更を要しない旨の通知（確定通知）⁷を受領、これを受けた評価書の公告縦覧手続きを行い終了しました。

調達資金の管理

グリーンボンドで調達された資金の充当と管理は戸田建設の財務部が行います。同社財務部にて、適格プロジェクトに対する予算と実際の支出を四半期単位で追跡管理する内部管理システムを準備します。調達資金の充当が決定されるまでの間は、同社が資金と等しい額を銀行預金に一時的に預入します。グリーンボンドの元本と金利の支払いは同社の運転資金から行われ、支払額が適格プロジェクトの実績に直接的に左右されることはありません。戸田建設では、グリーンボンドで調達された資金の大半は発行から3年以内に充当されると予想しています。

レポートニング

資金充当状況レポートニング

戸田建設は、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、プロジェクトについて（追加プロジェクトの説明も含む）、機密性を考慮しつつ毎年レポートを行うことを約束します。プロジェクトへの充当額とプロジェクトの説明は、同社ウェブサイト（<http://www.toda.co.jp>）で毎年公表され、また毎年発行のCSRレポートにも記載されます。さらに同社は、その財務担当役員（CFO）から調達資金の全額が充当されるまでの間、毎年、グリーンボンドの調達資金が適格プロジェクトに充当されていることを確認する旨のレターを受領する予定です。

インパクト・レポートニング

戸田建設は、充当状況のレポートニングに加え、グリーンボンドの償還までの間、適格プロジェクトに関連する以下の指標につきレポートする予定です。

- 建設した風力発電機の数と風力発電機の出力
- データが入手可能な場合は適格プロジェクトによるカーボンオフセットの量

⁴ 環境影響評価法（環境省） http://www.env.go.jp/policy/assess/1-3outline/pdf/panph_j.pdf

⁵ 戸田建設株式会社「（仮称）五島市沖洋上風力発電事業環境影響評価 方法書」に対する勧告について（経済産業省） http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/files/furyoku/furyoku-gotoshioki/hohosyo_dajinkankoku.pdf

⁶ 戸田建設株式会社「（仮称）五島市沖洋上風力発電事業環境影響評価 準備書」に対する勧告について（経済産業省） http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/files/furyoku/furyoku-gotoshioki/junbisyo_dajinkankoku.pdf

⁷ 戸田建設株式会社「（仮称）五島市沖洋上風力発電事業環境影響評価書」に係る確定通知について（経済産業省） http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/files/furyoku/furyoku-gotoshioki/kakuteituchi.pdf

戸田建設グリーンボンド

コンプライアンス・レビュー

戸田建設は、本グリーンボンドによる調達資金が充当されたプロジェクトが戸田建設のグリーンボンドフレームワークに適合しているかを評価するためのレビュー契約をサステナリティクスと締結します。このレビューは、戸田建設のグリーンボンドによる調達資金の全額が充当されるまで毎年行う予定です。サステナリティクスはレビューについてのレポートを作成し、戸田建設はこれを同社ウェブサイト上で公表します。毎年のレビューによって、戸田建設のグリーンボンドフレームワークに適合していない活動への資金充当があったとされた場合、戸田建設は該当する金額を戸田建設のグリーンボンドフレームワークに適合する別の活動に充当します。

サステイナリティクスのオピニオン

セクション 1：グリーンボンドフレームワークへのサステイナリティクスのオピニオン

概要

サステイナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドフレームワークは信頼性が高くインパクトの強いものであり、グリーンボンド原則 2018 の 4 つの核となる要件に適合しているとの意見を表明します。サステイナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドフレームワークにおける以下の要素を重要な点として考慮しました。

- 調達資金の用途：
 - 再生可能エネルギーはグリーンボンド原則 2018 において明確な環境改善効果を有するプロジェクトカテゴリーとして認められています。
 - 戸田建設は、洋上風力発電施設の建設に関連する支出に調達資金を充当することを約束します。サステイナリティクスは、建設などの設備投資は、追加の (Additional) 環境改善効果を生じさせることから、グリーンボンドによる調達資金の充当先となるプロジェクトとして投資家から広く選好されることを認識しています。
- プロジェクトの評価及び選定プロセス：
 - 戸田建設のプロジェクト選定プロセスは、エネルギー事業部が監督します。プロジェクト選定の最終承認は取締役会が行います。サステイナリティクスは、戸田建設の経営幹部レベルの関与がマーケットベストプラクティスであると評価します。
 - 戸田建設は、グリーンボンドで資金を調達する予定のプロジェクトに対して日本の法律に従った環境影響評価 (EIA) を実施しています。加えて、過去には洋上風力発電機の環境リスクについて試験的な評価にも参加しており、その洋上風力発電機がもたらす環境への影響は軽微であるとの結論が出ています。サステイナリティクスは、グリーンボンドで資金調達したプロジェクトから生じる環境リスク及び社会的リスクを低減する戸田建設のプロセスは堅実なものであり、マーケットベストプラクティスに合致していると考えます。
- 調達資金の管理：
 - 戸田建設の財務部は、適格プロジェクトの予算と実際の支出を四半期単位で追跡管理する内部管理システムを使って、グリーンボンドで調達された資金の充当と管理を行っています。このプロセスはマーケットベストプラクティスに合致しています。
- レポーティング：
 - 戸田建設は、プロジェクトの説明とプロジェクトへ充当額を、同社ウェブサイト及び CSR レポートにおいて年次で公表する予定です。加えて、同社は、風力発電機の出力や、データが入手可能な場合はプロジェクトによるカーボンオフセットの量などの定量的な環境効果指標について、マーケットベストプラクティスに沿う形で、レポーティングを行うことを約束しています。
 - 戸田建設は、財務担当役員 (CFO) から調達資金の全額が充当されるまでの間、毎年、グリーンボンドによる調達資金が適格プロジェクトに充当されていることを確認する旨のレターを受領する予定です。これはマーケットベストプラクティスに合致しています。
 - また、戸田建設は、プロジェクトがグリーンボンドフレームワークに適合していることを確認するために毎年レビューを受けることを約束しています。これはマーケットベストプラクティスに合致しています。

グリーンボンド原則 2018 との適合性

サステイナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドはグリーンボンド原則 2018 の 4 つの核となる要件に適合していると判断します。詳細については、参考資料 3：グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム外部機関レビューフォームを参照してください。

セクション 2：発行体のサステナビリティ実績

本フレームワークによる発行体企業のサステナビリティ戦略への貢献

CSR方針全体に組み込まれた環境方針及び環境目標が示す通り、戸田建設は環境に対する強いコミットメントを行っています。同社は、以下の 8 つの柱を通じて環境問題に貢献する取り組みを示しています。1) 環境マネジメントシステムの推進、2) 建設及び一般廃棄物の削減、3) 有害物質のリスク管理の強化、4) 温室効果ガス排出量の抑制、5) 生物多様性の尊重、6) グリーン調達推進、7) 環境技術に関する研究、開発、プロジェクトの推進と実施、8) 環境的配慮の推進。戸田建設は、環境に係る第 7 の柱の一環として、浮体式洋上風力発電事業をはじめとする発電事業について社内で目標を設定しています。このような目標設定は、戸田建設のグリーンボンドフレームワークが同社の環境目標及び環境戦略に貢献するものであることを表しています。

サステナビリティクスでは戸田建設のグリーンボンドフレームワークは同社の CSR 戦略とも合致し、同社の環境戦略に貢献するものであるとの意見を表明します。

プロジェクトに伴う環境及び社会的リスクに対応するための十分な体制整備

サステナビリティクスは、洋上風力発電施設の建設が環境リスクになり得ることを認識しています。具体的には建設時の騒音、生物多様性、建設従事者の安全衛生、地元住民との摩擦などです。環境リスク及び社会的リスクを低減するための戸田建設のプロセスはフレームワーク文書に記載されています。サステナビリティクスは、以下の根拠でこれを強固なプロセスであるとの意見を表明します。

- i. 戸田建設は、環境省の浮体式洋上風力発電実証事業において、浮体式洋上風力発電施設の建設が環境に影響を及ぼすかどうかを確認する環境影響評価（アセスメント）を実施しました。そして、風力発電施設がもたらす環境への影響は軽微であるとの結論が出ています。
- ii. 戸田建設はグリーンボンドの調達資金を充当するプロジェクトにおいて、日本の法律に従った環境影響評価（EIA）手続きを終了しています。
- iii. 戸田建設には安全衛生に関する方針があり、また労働者の安全衛生を確保するための労働安全衛生マネジメントシステムがあります。

戸田建設がすでに環境省の浮体式洋上風力発電実証事業において浮体式洋上風力発電施設がもたらす潜在的な環境への影響を評価しており、また、グリーンボンドによって資金調達を行うプロジェクトについても日本の法律に従った環境影響評価手続きを終了していることから考えて、サステナビリティクスでは、戸田建設には環境リスクを低減するための十分な体制が整っているとの意見を表明します。また、戸田建設が安全衛生に関する方針及び労働安全衛生マネジメントシステムを定めていることから考えて、同社には社会的リスクを低減できる十分な体制も整っています。

セクション 3：調達資金の使用によるインパクト

グリーンボンド原則において、再生可能エネルギーへの調達資金の充当は、環境に有意なインパクトを与えるものとして認められています。サステナリティクスは、以下のセクションにおいて、当該地域（日本国）における本カテゴリーの意義に注目します。

風力発電の重要性

気候変動枠組条約第 22 回締約国会議（COP22）における公約の一環として、日本国政府は再生可能エネルギーについて可能な限りの拡大を推進しており、これには風力発電のほか、太陽光発電、地熱発電、水力発電、バイオマス発電が含まれます⁸。2018 年に経済産業省が打ち出したエネルギー基本計画⁹では、日本では陸上風力発電に適した土地が限られていることから、日本にとって洋上風力発電の導入は中長期的に必要な不可欠であると述べています。

これは経済産業省が 2015 年にまとめた「長期エネルギー需給見通し」にも反映されており、この見通しでは安全性、エネルギー安全保障、経済的効率、さらに環境保護の観点から広い視野に立って 2030 年時点の日本のエネルギー構成を定めています¹⁰。計画では 2030 年時点での発電量において再生可能エネルギーの割合を現在の 2 倍にあたる 22~24 パーセントまで増やすことを想定しています（うち風力は 1.7 パーセント）¹¹。

このような背景から、浮体式洋上風力発電など再生可能エネルギーへの需要は国家的なレベルで拡大しています。以上のことから、サステナリティクスでは、戸田建設のグリーンボンドフレームワークが国の重要な目標に貢献し、日本の現状において明確な環境改善効果をもたらすものであると意見を表明します。

「持続可能な開発目標（SDGs）」との適合性及び貢献

「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」は 2015 年 9 月に策定され、持続可能な開発を実現するための 2030 年までの目標が設定されました。本グリーンボンドは以下の SDGs 目標を推進するものです。

調達資金の用途カテゴリー	SDGs	SDGs 目標
再生可能エネルギー	7. 安価でクリーンなエネルギー	7.2 2030 年までに、世界全体のエネルギー構成において再生可能エネルギーの比率を大幅に高める

結論

戸田建設のグリーンボンドフレームワークには透明性があり、グリーンボンドによる調達資金の用途及び係る投資による結果が明瞭に示されています。再生可能エネルギーは、グリーンボンド原則 2018 においても明確な環境改善効果をもたらす適格なグリーンプロジェクトカテゴリーとして認められています。日本の持続可能開発という課題を背景として、戸田建設の浮体式洋上風力発電プロジェクトは国家的な重要目標と低炭素社会への移行に貢献します。さらにサステナリティクスの検証したところでは、戸田建設社内の環境リスク及び社会的リスクに対応するための評価プロセスによって、日本国内における風力発電施設開発に伴う諸問題に対応できる体制が整っています。サステナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドは信頼性が高く強固なものであるとの意見を表明します。

⁸ 地球温暖化対策計画（環境省）<https://www.env.go.jp/press/files/jp/102816.pdf>

⁹ エネルギー基本計画（経済産業省）http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/pdf/180703.pdf

¹⁰ 長期エネルギー需給見通し（経済産業省）http://www.meti.go.jp/press/2015/07/20150716004/20150716004_2.pdf

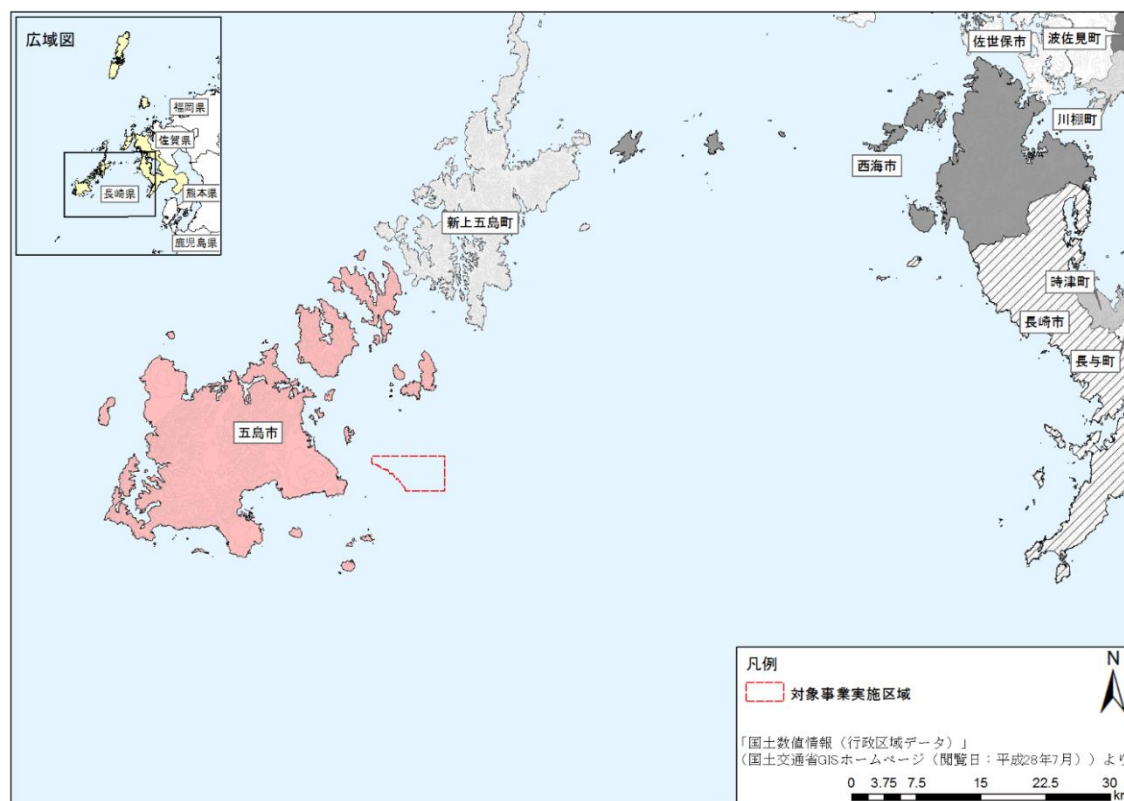
¹¹ エネルギー革新戦略（経済産業省）<http://www.meti.go.jp/press/2016/04/20160419002/20160419002-2.pdf>

参考資料

参考資料 1: 設置計画案における風力発電機の数と出力

風力発電機の数 (基)			発電所出力 (kW)
出力 2,000kW 級 (HWT2.1-80A)	出力 5,000kW 級 (HWT5.2-127)	合計	
8	1	9	21,000

参考資料 2: 五島市沖洋上風力発電事業の実施想定エリア (崎山沖)



戸田建設グリーンボンド

参考資料 3: グリーンボンド/グリーンボンド・プログラム外部機関レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体の名称： 戸田建設株式会社

グリーンボンド ISIN コードまたはグリーンボンド発行体フレームワークの名称（該当する場合）：
（必要に応じて、明記してください）

レビュー機関の名称： サステイナリティクス

本フォームの記入完了日： 2018年10月30日

レビューの発行日：（本レポートが過去のレビューの更新版である場合、その旨を記載し、参照すべき元文書をご記入下さい）

セクション 2. レビューの概要

レビューの範囲

レビューの範囲を要約するため、必要に応じて以下の項目を使用または採用してください。

レビューでは次の要件を評価し、グリーンボンド・プログラムとの整合性を確認しました。

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価及び選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

レビュー機関の役割

- | | |
|--|---------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルティング（セカンドオピニオンを含む） | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> レーティング |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： | |

注記：レビューが複数ある場合やレビュー機関が異なる場合は、各レビューにレビューフォームを作成してください。

レビューの概要またはレビュー全文へのリンク（該当する場合）

グリーンボンドフレームワークの概要と上記のセカンドパーティ・オピニオンを参照してください。

セクション 3. レビューの詳細

レビュー機関は、下記項目について可能な限りの情報を提供してください。コメント欄を使用して、レビューの範囲を説明してください。

1. 調達資金の用途

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

戸田建設は調達資金をフレームワーク内に記載の適格クライテリアに従って浮体式洋上風力発電施設の建設に使用します。サステナビリティクスは、再生可能エネルギーはグリーンボンド原則 2018（GBP）において適格なプロジェクトカテゴリーと認められており、明確な環境改善効果をもたらすとこの意見を表明します。

資金の用途のカテゴリー（分類は GBP に基づく）：

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> 省エネルギー |
| <input type="checkbox"/> 汚染の予防と管理 | <input type="checkbox"/> 自然資源の環境上持続可能な管理と土地の使用 |
| <input type="checkbox"/> 生物多様性保全（陸上及び海洋） | <input type="checkbox"/> クリーンな輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源と廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 環境に配慮した、または、循環経済に適応した製品、製造技術、製造工程 | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 債券発行の時点では確認されていないが、将来的に GBP のカテゴリーに適合するか、またはまだ GBP のカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

GBP のカテゴリーにない場合は、環境分類を記入してください（可能な場合）：

2. プロジェクトの評価と選定に関するプロセス

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

グリーンボンドによる調達資金の充当の対象として選定したプロジェクトが適格クライテリアに適合していること及び関連する環境リスクを低減プロセスするためのプロセスを順守していることは、戸田建設のエネルギー事業部が確認します。プロジェクト選定の最終承認は取締役会が行います。

サステナビリティクスは、これがマーケットベストプラクティスであるとの意見を表明します。

評価と選定

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境上の持続可能性目標は、環境問題の改善に寄与する。 | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトがGBPのカテゴリーの範囲に適合していることが判断される |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドによる調達資金に適格なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている | <input type="checkbox"/> 文書化プロセスにより、プロジェクトに関連して発生しうる ESG リスクを特定し管理している |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

責任に関する情報

- | | |
|--|----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 評価/選定のクライテリアについては外部機関による助言または検証が必要 | <input type="checkbox"/> 組織内での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： | |

3. 調達資金の管理

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

グリーンボンドで調達された資金の充当と管理は戸田建設の財務部が行います。同社財務部にて、適格プロジェクトの予算と実際の支出を四半期単位で追跡管理する内部管理システムを用意します。調達資金の充当が決定されるまでの間は、同社が資金と等しい額を銀行預金に一時的に預入します。グリーンボンドの元本と金利の支払いは同社の運転資金から行われ、支払額が適格プロジェクトの実績に直接的に左右されることはありません。戸田建設では、グリーンボンドで調達された資金の大半は発行から3年以内に支出されると予想しています。

サステイナビリティクスは、これがマーケットプラクティスに沿ったものであるとのオピニオンを表明します。

調達資金の追跡管理：

- | |
|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体はグリーンボンドで調達された資金を適切な方法で区別または追跡管理している |
| <input type="checkbox"/> 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

その他の情報開示：

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 将来の投資にのみ充当 | <input type="checkbox"/> 現在と将来の投資に充当 |
|--|--------------------------------------|

戸田建設グリーンボンド

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> 支出ポートフォリオに充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

4. レポーティング

セクションについての総合的コメント（該当する場合）：

資金充当状況レポーティング

戸田建設は、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、プロジェクトについて、機密性を考慮しつつ毎年レポートを行うことを約束します。プロジェクトの説明とプロジェクトへの充当額は同社ウェブサイト（<http://www.toda.co.jp>）で毎年公表され、また毎年発行の CSR レポートにも記載されます。さらに同社は、その財務担当役員（CFO）から調達資金の全額が充当されるまでの間、毎年、グリーンボンドの調達資金が適格プロジェクトに充当されていることを確認する旨のレターを受領する予定です。

インパクト・レポーティング

戸田建設は充当状況のレポーティングに加え、グリーンボンドの償還までの間、適格プロジェクトに関連する以下の指標を開示する予定です。

- ・ 建設した風力発電機の数と風力発電機の出力
- ・ データが入手可能な場合は適格プロジェクトによるカーボンオフセットの量

サステナリティクスは、レポーティングがマーケットベストプラクティスであるという評価を表明します。

資金充当状況レポーティング：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクト・ポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個々の債券の情報源にリンクを張っている | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

報告される情報：

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当額 | <input checked="" type="checkbox"/> 投資額全体におけるグリーンボンドによる調達額の割合 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： | |

頻度：

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年 | <input type="checkbox"/> 半年毎 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： | |

インパクト・レポーティング：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクト・ポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個々の債券の情報源にリンクを張っている | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

頻度：

- 毎年 半年毎
 その他（具体的に記入してください）：

報告される情報（予想または事後の報告）：

- 温室効果ガスの排出量／削減量 消費エネルギーの削減量
 水使用量の削減 その他の ESG 指標（具体的に記入してください）：建設した風力発電機の数と風力発電機の出力及び適格プロジェクトからのカーボンオフセットの量（データが入手可能な場合）

開示の方法

- 財務報告書に掲載 サステナビリティ・レポートに掲載
 アドホックの報告書に掲載 その他（具体的に記入してください）：戸田建設のウェブサイト
 レポーティングは審査済み（審査済みの場合は、どの部分が外部審査の対象であるかを明示してください）：

該当する場合、参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を明記してください

参考情報へのリンク先（例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク）

参照可能なその他の外部審査（該当する場合）

提供されているレビューの種類：

- コンサルティング（セカンドオピニオンを含む） 認証
 検証 / 監査 レーティング
 その他（具体的に記入してください）：

レビュー機関：

発行日：

グリーンボンド原則（GBP）が定義するレビュー機関の役割について

戸田建設グリーンボンド

- i. コンサルタント・レビュー：発行体は、環境的な持続可能性、その他グリーンボンド発行におけるさまざまな面（発行体のグリーンボンドフレームワークの策定／レビューなど）について、定評ある専門知識を備えたコンサルタントや専門機関に助言を求めることができます。「セカンドパーティ・オピニオン」はこのカテゴリーに含まれます。
- ii. 検証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、または裏付けとなる資産について、資格要件を満たした当事者（監査人など）に独立した立場からの検証を受けることができます。以下の認証（certification）と異なり、検証（verification）では発行体が作成した内部基準や要件との整合性に焦点を当てることができます。裏付けとなる資産の環境的に持続可能な特性の評価も検証と呼び、外部のクライテリアを適用する場合があります。
- iii. 認証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンドフレームワーク、または調達資金の用途について、外部のグリーン評価基準に照らして認証を受けることができます。クライテリアは評価基準によって定義され、こうしたクライテリアとの整合性を、資格要件を満たした第三者機関／認証機関が確認します。
- iv. レーティング（格付け）：発行体は、発行するグリーンボンド、またはそれに関連するグリーンボンドフレームワークのレーティングを、資格要件を満たした第三者機関（専門的調査機関、格付け機関など）から取得することができます。グリーンボンドのレーティングは通常、個別の債券やグリーンボンドフレームワーク／プログラムに適用されるもので、発行体の ESG レーティングとは別です。

免責事項

© Sustainalytics 2018.無断複写・転載を禁じます。

本オピニオンのいかなる部分も、サステナリティクスが書面で明示的に同意しない限り、複写・流布したり、他の情報と混合したり、派生物の作成に使用したり、何らかの形で提供したり、第三者に開示したり、出版したりすることはできません。また、本オピニオンの一部または本オピニオンに電子的または機械的に、あるいは複写機や録音を通じて何らかの形または方法で記載された情報は、本オピニオンと並行して策定されている「グリーンボンドフレームワーク」と無関係に公表することもできません。

本オピニオンは、分析対象の債券が持続可能であり、責任を果たし、さらに特定の投資家ではなく投資家全般が使用できるようにしているとみなされる理由を説明するために作成されました。したがって本オピニオンは情報提供のみを目的とするものであり、サステナリティクスはオピニオンの内容についてのいかなる形の賠償責任も、オピニオンやそこに含まれる情報の利用に起因する損害に関する賠償責任も認めることはありません

本オピニオンはクライアントから提供された情報に基づいて作成され、その情報は「そのまま」提供されているため、サステナリティクスは本オピニオンに提示された情報の完全性、正確性及び最新性を保証しておらず、誤差脱漏に対する責任を負うこともありません。第三者の名称への言及は、所有権を適切に承認するためであり、係る所有者によるスポンサーシップまたは支援を裏付けるものではありません。

本『オピニオン』に記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、企業への投資の可否、または投資可能ユニバース／ポートフォリオへの組み入れの可否についての表明や保証とみなすことはできません。また、本オピニオンに記載されたいかなる内容も、（適用可能な法域において定義されている）投資アドバイスとみなしたり、経済的パフォーマンスや債券の信用力の評価と解釈したり、調達資金の効果的な充当に焦点を当てたものと解釈したりすることはできません。

クライアントは自らの行動の適法性・実行・監視について、認証の取得や確実な実施の全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に不一致がある場合、英語版が優先されます。

サステイナリティクスについて

サステイナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステイナリティクスは世界各地に13のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESGに関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステイナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。また、サステイナリティクスは Global Capital 社により「2017年もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018年には、Climate Bonds Initiative 団体及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定されました。サステイナリティクスは、2018年に、日本のグリーンボンド市場の成長に対する弊社の貢献に対し、一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞しております。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照、または

info@sustainalytics.com にご連絡下さい

